

(別紙2)

## 審査の結果の要旨

氏名 海老原志穂

本論文は中華人民共和国青海省海南チベット族自治州共和県で話されているチベット語アムド方言（アムド・チベット語とも呼ばれる）の記述である。

本論文は 650 頁を超える、意欲的な研究である。「第 1 章 チベットの概要」はチベット語の系統、地理的分布、方言等を示す。「第 2 章 チベット語アムド方言—言語とその話者—」はアムド方言の地理的分布、その地域の歴史、話者数、方言差、先行研究、本論文で用いたデータ等を紹介し、更に、社会言語学的側面（言語使用の状況、言語接触、自称・他称等）を提示する。「第 3 章 音韻論」は音素とその音声的実現、音結合、音韻的なプロセス、形態音韻論等を記述する。「第 4 章 品詞分類」は自立語、接語、接辞の区別を設定して、自立語と接語を以下の様に分類する：名詞、代名詞、数詞、形容詞、動詞、副詞、感嘆詞、助詞。「第 5 章 形態」は名詞、代名詞、数詞、動詞の活用と派生を記述する。「第 6 章 統語論」は句のタイプ、節のタイプ、文のタイプを提示する。次に、語の中、句の中、節の中、文の中での構成要素の順番を検討する。更に、三つのタイプの従属節を記述する。特に、これらの節が主節に従属する度合を検討する。「第 7 章 語彙」は家畜の呼び分け等を扱う。「第 8 章 言語の位相」は敬語、文語スタイル、ボディランゲージ等を記述する。付録として、テキスト二つ、なぞなぞ、ことわざを添える。

本論文には改善の余地はある。例えば、助動詞の意味としての「共感」などの概念規定をより明快にすることが望まれる。

しかし、本論文はこの問題点を補って余有る、重要な貢献である。まず、いわゆる少数言語の研究では稀に見る包括的な記述である。Documentation（言語の記録）としての価値が高い。本論文は、中央チベット語や文語チベット語に比べ、従前研究の遅れていたアムド・チベット語の記述研究を充実させた。

更に、本論文は、チベット語の研究の水準を上げた大きな貢献である。複文（第 6 章）、家畜の呼び分け（第 7 章）、敬語（第 8 章）はチベット語の先行研究が殆ど扱っていなかったテーマである。特に、節の従属度の研究は、非常に水準が高く、一般言語学にも大きな貢献になる。また、本論文はチベット・ビルマ諸語の歴史研究に資するところも大きい。

以上の理由により、審査委員会は、本論文が博士（文学）の学位を授与するに十分値するものと判断する。